

## 10. ハンディキャップ委員会活動へのご協力のお礼とお願い

平成 25 年 9 月 吉日

障がいを持つ方々のスキーをはじめとするウインタースポーツを支援してゆく目的のために発足したハンディキャップ委員会は14年目を迎えます。昨年度は財団法人から公益財団法人に衣替えしての初年度でしたが、これまで同様、数多くのボランティアの方々をはじめ関係組織の方々に支えていただき、活動に取り組むことが出来ました。昨シーズンは、ハンディキャップ委員会の取り組みとして、ハンディキャップセミナーⅠ（障がい者の外出支援・10月）、ハンディキャップセミナーⅡ（障がい者の雪上でのサポート・指導実践・1月）、五竜（1月）と車山（3月）の障がいをもつ人のためのスキー教室、鹿沢チャレンジカップスキー大会（4月）の4事業を行いました。

支援活動をより良くするために開催した10月のセミナーⅠでは、参加者24名が「下肢障がいを持つ方へのサポート」のための基本的な障がいの理解（座学）と車いす、チェアスキー、バイスキー、アウトリガーといった用具の理解と使用法を学び、1月のセミナーⅡでは参加者16名が実際に雪上でチェアスキー、バイスキー、アウトリガーを使ってサポート方法を学びました。

1月の五竜スキー教室では総勢62名、3月の車山スキー教室では総勢131名の参加があり、両行事ともセミナー参加者も加わり無事終わることが出来ました。4月のチャレンジカップには参加者、介助者含めて13名の参加があり無事終了することが出来ました。皆さまのご協力にあらためて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

ハンディキャップ委員会では、これらの活動の重要性を再認識し、スキーをはじめとするウインタースポーツをより楽しみたいと望んでいる障がいを持つ方々と共に、更に一步前進していきたいと思っております。過去の実践で得られた貴重な経験を踏まえ、今年度も疑似体験を通して、委員はもちろんボランティアの方々も障がいについての理解を深め、よりよい支援活動が可能となるように「ハンディキャップセミナーⅠ・Ⅱ（障害者のサポートについて・雪上でのサポート指導実践）」を開催いたします。また車山行事では、参加者の方々が参加しやすいように往復バスを利用し、ボランティア登録をいただいているの方々のご協力のもと生活サポートも含めた取り組みを行ってゆきます。もちろんチャレンジカップスキー大会のサポートもさらに力を注いでゆきたいと考えております。これらの事業を実施するにあたっては、参加者の実費負担を原則とはいたしますが、セミナーや行事運営、委員諸活動、ボランティアへの謝礼その他に多くの資金が必要となります。今年度（25年度）もスポーツ振興くじ（toto）助成金の交付申請が認められましたので、充実した内容で運営が出来るものと考えております。「賛助会費」については今後も機会ある毎にお願いしてまいります。今シーズンもハンディキャップセミナーへのご参加、ボランティア登録及びスキー教室等のボランティア参加もあわせてよろしくお願い申し上げます。

なお指導員、準指導員の方々は、研修会・クリニックと併設で行われるハンディキャップ行事へのボランティアとしてのご協力は研修会、クリニック参加として認められますので、ふるってご参加ください。

公益財団法人 神奈川県スキー連盟  
総務本部 ハンディキャップ委員会